

第3回県立大学設置の検討に係る有識者会議 議事概要

1 日 時：令和5年9月29日（金）10：00～10：50

2 場 所：三重県勤労者福祉会館5階 第2研修室及びオンライン

3 出席委員

石阪 督規 埼玉大学キャリアセンター センター長・教授
伊藤 公昭 株式会社三十三総研 代表取締役副社長 博士（学術）
田村 秀（議長） 長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
両角 亜希子 東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策コース 教授
山田 直彦 一般財団法人日本開発構想研究所 高等教育研究部 副主幹研究員

4 内 容（意見交換）

- 設置主体である自治体と公立大学が密な連携をとることがあまりなく、設置者側は大学に積極的に関与しないことが多い。
- 今後、県においてどういう人材養成が必要かを発信し、教育機関に積極的に提示したり、関わったりすることが必要ではないか。県の人材育成の考えや方針などを発信していくことが大切である。
- 産学連携を進めることによって、例えば既存の大学に代わるような人材育成・定着を進めていくことができると思われる。
- 同時に、三重県に住む高校生の進路の選択肢が狭く、県外へ出ざるをえないこともあると思われるので、既存の大学等が高校生のニーズに合った学部・学科・コースを供給できるよう、常に見直していくことが必要であり、大学間がコンソーシアムなどで連携し、高校生のニーズに沿ったプログラムの作成などの動きが出てくると、県立大学を作るより、費用対効果を考えるとメリットがあると思う。
- 他県においてはコンソーシアムが形骸化している所もあり、実態として動いているかは自治体によってかなり違うので、三重県には期待したい。
- 組織を作って終わるのではなく実質的な成果を求めて、高校生のニーズと大学側の様々な事情をうまくマッチングさせるなど、中身の濃いコンソーシアムとなるよう県としてもご尽力いただきたい。
- 報告書（案）に「デジタル分野に限り」とあるが、デジタル・グリーンの二つだけではなく、理系分野全体の学部設置を政府は後押ししており、実際にこの補助金では工学系や建築、福井の恐竜等とデジタル・グリーンだけではないため、誤解されないような表現にするとよい。
- また、「あまりに特色ある大学をつくると、学生が県内外から集まるが卒業時に

は県外へ出ていき、結局県内定着につながらない可能性もある」とあるが、一定数は県内に定着したり、そこで様々なネットワークができるといった効果も期待できるので、デメリットをそこまで強調しなくても良いと思う。

- 「まとめ」の記述について、まず県の人材育成の考えや方針を発信していくことが大切で、コンソーシアムが実質的に稼働していない所は、対話をしていなかったり、県のメッセージが伝わっていない面もあるように感じる。そこを明確にしていく必要があると思う。
- 例えば福岡県は公立大学を3校も持っており、県の方針が明確にある。
- アジアへの入口として国際化を進めるため、福岡女子大学は国際化を担っているし、一方で、過疎が進んでいる地域に県立大を置いて、地元の高校生や小学生の学習支援等も含めて地域の弱い部分を補っている。
- また、九州歯科大という公立大学唯一の歯科では高度な研究をしたり、高齢者の健康状態には歯が大事ということで地域との窓口になっており、歯科は地域貢献の高い教育研究で欠かせないとして、県の方針と大学に求められていることが明確にある。
- 福岡県の公立大学の評価委員会では年に3～4回、非常に丁寧な対話をしており、そういった対話の場がなければ連携もなかなか進まないと感じるので、そこは三重県にもリクエストしたい。
- 最後にまとめとして、県外の大学や企業など、色んな所ともっと繋がる発想を入れると良いのではないか。三重県内に閉じている印象を受けるので、もう少し開いた議論があっても良いと思う。

- 先の意見に関して、1点目のデジタルの記載は、誤解のないよう表現を検討させていただく。
- 2点目は確かにネガティブな面ばかりのため、プラスの部分も書かせていただく。
- 3点目は、大学や高校と実質的に実りのあるプラットフォームをつくるには、県が主体的になって人材育成の方向性を発信するなど、書き方は色々あるが少し文言を加えさせていただく。
- 4点目は、県内の大学との連携も大事だが、三重県がつながる大学は、県外の大学でも良いし、県外の企業などにつながる発想があっても良い。若者の県内定着のためには重要な視点だと思うので、この点も記述を検討したい。

- 三重県の産業振興や人材育成の考えをしっかりとった上で、若者の県内定着に取り組んでいくことを、今回の議論を契機に一層考えてもらいたい。

- 県外の大学と三重県の各企業が繋がっておらず、上場企業は就職面談に列ができるが、中小企業が会議所のセミナーに参加しても1日1人も来ないような状

況が続いている。いくつかの大学の就職部署へ行ったが、県内企業のデータが殆どなく、リクルートやマイナビを頼るしか県外へ出た学生が戻れない状況があると思う。

- 「まとめ」に関して、県庁や会議所、県外の大学との連携を深めることで三重県内の企業をもっとアピールするようなことを書いてもらえると良い。
 - もう一つ、例えば熊本ではT S M Cやソニーが来ることによって地価がすごい勢いで上がっており、同様に千歳市においては、ラピダスが進出することによって周辺 20 キロ 30 キロまで地価も上がる環境になっている。
 - 学生を留めることに力を入れるのも大事だが、三重県に外から人が来てもらう仕組みを作ることが大事だと思う。例えば熊本や千歳では半導体が切り口になっている。
 - 三重県の北勢地域には様々な日本を代表する企業があり、四日市市では大学を設置するようなことを発表しているので、その辺りと一緒になってやっていくことも考えてもらえると良い。
 - 四日市に外から人が来て、南部の人が県外に出ずに四日市に留まる、もしくは四日市の産業化が更に進めば、鈴鹿や津で事業所が増えたり、地価の比較的安い南部に工場ができるとなればその地域の働く場所も増えることになる。
 - 南部の就職や進学の機会に提供をそういった形で補えたとすれば、多額の費用をかけて県立大学を作るよりもかなり大きな効果が得られると思うので、県立大学の新設以外の選択肢にそういったことも考えてもらえると良い。
-
- 先の意見に関して、1 点目は、三重県内の企業が県外の大学生にも知られるように、働きかける必要があるということで、言葉を追加していきたい。
 - 2 点目は、県としても財政的な部分などで検討が必要だと思われ、北勢でそういう動きが具体化していけば、県として何らかの形のサポートは必要になってくるだろうが、報告書として入れるのは少し難しいと思う。
 - 一旦、18 歳で県を離れた人達が県外で経験を積み、三重県に帰ってきてもらうには企業と繋がらないといけないので、是非ともそういうところは取り組んでもらいたいし、少なくとも県外の就職支援協定締結大学からのUターン就職率が3割というのは、もう少し高くなるような取組ができるとよい。